

## 【第90回生涯教育講座】

## 機能性消化管疾患

きの した よし かず  
木 下 芳 一

キーワード：非びらん性胃食道逆流症，機能性ディスぺプシア  
過敏性腸症候群，胃酸分泌抑制薬

## 要 旨

機能性消化管疾患に分類される非びらん性胃食道逆流症（NERD），機能性ディスぺプシア（FD），過敏性腸症候群（IBS）は，その病因に共通する特徴を有しており，互いに合併したり移行しあうことの多い疾患である。これらの診断においては特有の症状に注目するとともに適切な臨床検査をおこなって器質的疾患の除外をおこなうことが重要となる。治療においては，食事指導・生活指導とともに，胃酸分泌抑制薬，消化管運動機能改善薬，セロトニン受容体拮抗薬，抗不安薬等が用いられるが，1つでほとんどの対象例の症状を消失させることのできる治療法は存在せず，いくつかの方法を使い分けたり組み合わせて治療がおこなわれる。機能性消化管疾患では症状が変化，変動することが多いため，常に腹部のあらゆる症状に注目しながら治療をおこなっていくことが重要である。

## はじめに

胸腹部を中心に消化管に起因すると推定される種々の症状が存在するにも関わらず，その症状の原因となりうる器質的な疾患が存在しない場合に，消化管の機能的な変調が症状の原因であろうと考え機能性消化管疾患と呼んでいる。機能性消化管疾患は，出現する症状の種類によって，多くのタイプに分類されているが，頻度の高いものは非びらん性胃食道逆流症（NERD: non-erosive reflux

disease），機能性ディスぺプシア（FD: functional dyspepsia），過敏性腸症候群（IBS: irritable bowel syndrome）の3つのタイプであり，この3タイプを合わせると人口の30%程度の頻度に達すると考えられている。これらの機能性消化管疾患は，種々の不快な症状によって患者のHRQOL（health related quality of life）を著しく低下させるだけでなく労働生産性を低下させることが明らかとなり，適切な対応をおこなっていくことが必要である。そこで本総説では，NERD，FD，IBSについて解説をするとともに，これらを有する患者の診療をおこなう時の注意点について述べる。

Yoshikazu KINOSHITA

島根大学医学部第2内科

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1